



今月の御聖訓



日蓮其ノ身にあひあた
りて、大兵ををこして
二十余年なり。日蓮一度も
しりぞく心なし。しかりとい
えとん、弟子等壇檀那等の
中に臆病のもの、大体
或はをち、或は退転の心あり

日蓮其ノ身にあひあた

りて、大兵ををこして

二十余年なり。日蓮一度も

しりぞく心なし。しかりとい

えとん、弟子等壇檀那等の

中に臆病のもの、大体

或はをち、或は退転の心あり

【弁殿尼御前御書 全集一二三四頁】

目次

| | |
|---------------|----------------------|
| 今月の御聖訓 | |
| 慶讃文 | 1 |
| 修復落慶法要 | |
| 経過報告 | 新田清治 3 |
| 来賓祝辞 | 関西正信連合会会長 高橋政一 5 |
| 来賓祝辞 | 南近畿教区広宣寺住職 築瀬明道 6 |
| 住職謝辞 | 菅野憲道 7 |
| 法華講総会 | |
| 所感発表〈法統相統〉 | 新谷美奈子 10 |
| 講演〈妙の三義〉 | 津市経住寺住職 古川興道 12 |
| 講演挨拶 | 尾林弘三 18 |
| 住職指導 | 菅野憲道 19 |
| 閉会の辞 | 福田一晃 20 |
| 六月の行事 | 今月の宅お講 水無月詠草 恵日俳壇 訃報 |

慶

讚

文

源立寺修復落慶法要の砌

方に今、新緑は山に映え清風一天に渡るの好季、ここ北摂池田市惠日山源立寺に於て寺域を嚴飾し御宝前を莊嚴して、恭しく修復落慶の法要を修し奉る。

謹しみて

南無本地難思境智冥合久遠元初自受用報身人法一箇独一本門大御本尊

南無本因妙之教主一身即三身三身即一身三世常恒御利益主師親三徳大慈大悲宗祖日蓮大聖人

南無法水瀉瓶唯我与我本門弘通大導師第二祖白蓮阿闍梨日興上人

南無一間浮提之御座主第三祖日目上人等御歴代正師の御宝前に敬つて白す。

夫れ当山は天正の頃草創の古刹にして、江戸中期の元文年間、東陽坊日理によつて淀川の畔長柄の地に寺号再興して富士日興門流の法燈を灯せり。

その後大塩の乱によつて寺運逼塞するも、明治十年広布院日奘の代現在地に移転してより時の檀徒等よく教化折伏に邁進し、法運次第に發展、寺基も定まれり。

而して本堂再建以来年旧りて老朽化し、軒は朽ちて甍は崩れたり。ために堂宇の大修繕を要するに到る。前住秀浩房の時改築の議あるも果たさずして正信覚醒運動の道半ばに倒れ、

今また管長問題や創価学会問題等による混乱の為諸般の事情により実現に至らずして徒らに日を送る。

然るに昨年一月の大震災起るや一気に修復事業の機運高まり、檀信徒一同心を合せて復旧作業のかたわら募財に尽くす。加之全国の正信会の僧俗また義援の芳志を寄す。

この浄資をもととして本堂庫裡山門等の修復をなし、工期一年四力月にして漸く寺觀を一新し、今日の落慶を見る。ここに永年の懸案は一挙に解決せり。

寔に是れ

宗祖大聖人の御冥鑑を垂れ給う処にして、災を転じて福となすの御金言虚しからず、また緇素の感激之に過ぎず。

本日ここに慶祝の法筵を敷くは、大御本尊の御威光倍増し、広宣流布の大願成就と当山に詣でん一切の衆生をして、皆悉く仏果菩提を証せしめ給はんことを祈らんがためなり。

仰ぎ願くば

仏祖三宝尊冥鑑を垂れ給い我等が微志を哀愍納受し給わんことを。

平成八年五月十二日

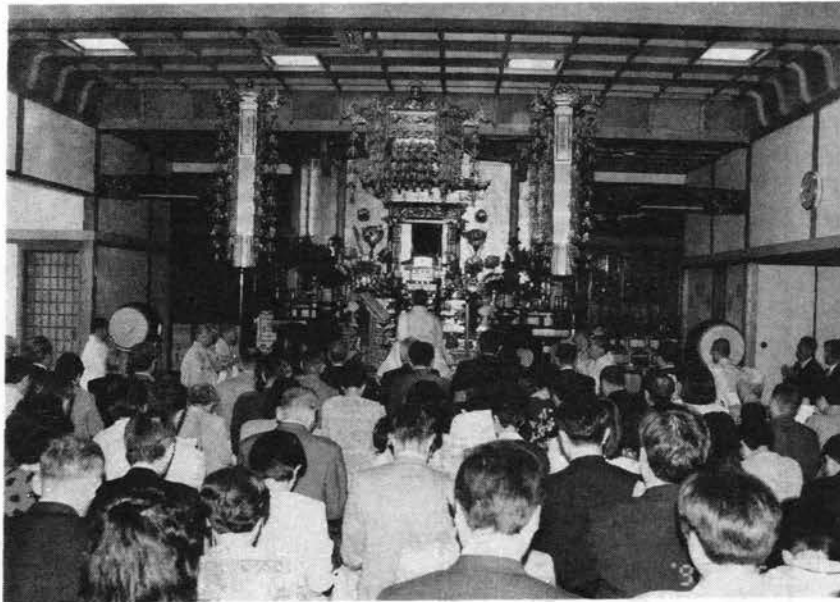
惠日山源立寺第二十五代

憲道日順敬白

諸天も寿ぐ五月晴れのなか

源立寺修復落慶法要並びに
第二十六回源立寺法華講総会

開催される



阪神大震災による被害を受けていた、源立寺の修復がほぼ完成した五月十二日、午後一時から源立寺本堂において「源立寺修復落慶法要並びに第二十六回源立寺法華講総会」が晴れやかに開催された。

天気予報では雨の心配もあったが、当日はそんな予報も吹き飛ばすような五月晴れで、汗ばむような陽気であった。

修復落慶法要

まず、源立寺修復落慶法要は、一時ちょうどに司会の山本収さんより開式の辞があり、出仕鈴が打たれるなか住職が出仕。献膳・読経・焼香と進められ、途中「而説偈言」で聲が打たれ、住職によって慶讃文が奉読され、仏祖三宝尊へ源立寺の修復諸工事が無事終了したことの奉告がなされた。

再び読経・唱題と如法に厳修された法要の後、修復委員会副委員長新田清治さんから本日の慶事を迎えるにいたった経過報告、修復委員会会計担当の山田吉昭さんから、特別会計報告がなされた。

次で、住職より修復工事を担当した、天理市石野瓦工業・和泉市錦戸工務店・池田市寿工務店に対して感謝状と記念品の贈呈がなされた。

さらに、来賓としてご臨席いただいた関西正信連合会会長の高橋政一氏と、南近畿教区を代表して広宣寺築瀬明道師より、ご祝辞をいただき、修復委員長尾林弘三さんと、住職より謝辞があり、最後に題目三唱をもって、法要の部は終了した。

法要終了後、総会までの休憩時間に、住職並びに代表者によって、本堂前脇に「きんめつけ」が記念植樹された。



司会の山本副講頭



境内テントでの受付風景

経過報告

修復副委員長 新田清治

修復委員会を代表しまして経過報告をさせていただきます。

本日は源立寺の修復が立派に完成いたしました。まして、まことにおめでとうございませう。まだ境内の工事が多少残っておりますが、この修復落慶をまず大御本尊様にご奉告申し上げ、さらに檀信徒の皆様にご披露すべく本日の法要をとり行った次第であります。源立寺は、本堂再建以来四十年近くたつ



新田総代の経過報告

神大震災によって、屋根に大きな被害を被り、一刻の猶予もできない状態となりました。そこで一月末に、臨時の講頭、副講頭、総代会が召集され、席上源立寺修復委員会がもうけられ、住職の指導のもと、当委員会を中心に修復事業に取り組むことになりました。

当初は、長引く不況といい、また講中の方も多かれ少なかれ何らかの被害を受けたものと思われれますから、募財をおこなっても、任意のご供養では、果たして資金が集まるか、心配しておりました。ところが皆様の法燈護持の厚いお心により、思いがけず総計八千万円以上の資金が調達できました、全体の修理を一遍にすることになったのであります。

そして昨年七月末には、ほぼ本堂の修復を終え、法華講総会も新しい本堂で開催できました。ちなみに本堂の瓦は飛鳥瓦の本

て、以前から老朽化のため屋根のふき替えなど、修復の必要にせまられていたが、ご周知の通り、昨年一月十七日の阪



唱題の中、献膳から修復法要は始まった

葺きとなり、妻も虹梁を入れ、屋根の小屋組みもほとんど新しくなって風格をましました。内装も、天井は折上げ格天井となり、窓も柱や壁を補強しながら、開口部を広げ、明るく荘厳な本堂となりました。

さらに昨年秋より、山門・トイレ・塀などの第二期改修に取りかかり、年末にはすべての工事が終わる予定でございました。

ところが、秋のお彼岸の中日に、宗門側の僧侶から、工事禁止の仮処分訴訟が起されまして、万一のことを考えて一時中断いたしました。詳しくは『恵日』に掲載してあります。修復工事を妨害するなど、全く常識を疑うものであります。結局宗門側の言い分は裁判所の受け入れるところとならず、異例のスピードで結論が出て、相手方無条件取り下げという、実質的な勝訴をもって事件は解決したのでした。済んでみれば、ただの嫌がらせでありましたが、優秀な弁護士と裁判官の理解によって二ヵ月余りという短期間に解決できましたことは、ひとえに御本尊様のご

加護によるものと思います。

年が明けてから早速工事再開いたしました。例年のない寒波の襲来で、工事の進行もなかなかかどりませんで、工期も大幅に遅れましたが、関係者の努力と、講中一同の熱意によって、四月に入って急速にはかどり、ここに大略完成したので、本日予定通り修復落慶式を迎えることができました。

最後になりましたが、この事業が多くの皆様の有形無形のお志に支えられ、また工事関係者のご努力によりまして、予想以上に立派な事業が完成できました。ここに修復委員会の職務を全うできましたことを、厚く御礼申し上げるものであります。

今後は、私も一同、この立派になった道場を中心に、一層信心に励んでいくこととお誓いしまして、経過報告といたします。



来賓祝辞

源立寺の歴史に輝かしき一頁

関西正信連合会会長 高橋 政一

じて、一日も早く大御本尊様に安心してご奉公できるよう講中の皆様のご尽力をお願いしたのであります。

平成七年一月十七日の早朝突然起きた阪神大震災によって、当源立寺におかれども本堂・庫裡の屋根、三師塔、山門などに被害を受けられ、また講中の皆様方におかれても多かれ少なかれ被災される中、ご住職の心の中いばかりであったことかと思われましたが、早くも一月二十八日緊急に役員方を召集され、今後の対策を協議され、修復委員会を設け修復工事の方法や、募財の段取りなどを進めてこられたのであります。

ご住職としては、当源立寺は法華本門の大御本尊在すご本堂であり、各信徒の帰命依止の道場であるとともに、日々各位のご先祖を廻向する菩提寺でもありません。この尊い道場を外護申し上げることは、僧俗の責務であるとともに、今回のような非常時に際してご奉公申し上げることは、大きな功德善根となることを肝に銘

以来、修復委員会を何回も開かれ、本日まで種々な困難事情を乗り越えられ、その上、ご住職におかれては、心身ともに大変なご辛勞の末の病に倒れられ、入院するまでになられたのであります。

しかしながら、本日幸いにも御本尊様・諸天のご加護のもと、南近畿教区御尊師を始め、源立寺並びにご住職の有縁の諸大徳様、教区内講中の皆様をお迎えしての修復落慶法要と、第二十六回源立寺法華講総会を、無事、晴ればれと開催され、誠に慶賀の至りで、心よりお祝いとお慶びを申し上げます。

これ偏えに源立寺御本尊様のご加護はもとより、修復委員各位の熱意並びに、各信徒の皆様の限りなきご支援とご協力の渾然一体となって成し得た賜物でありまして、これからの源立寺の歴史の上にも燦々として、輝かしき一ページを加え



錦戸棟梁に感謝状の贈呈

たものと信じてやみません。また私たち信徒一同も、この栄えある法要に参加する機会を得ましたことは、本当に幸せであり、光栄の至りに存じ上げます。今後は、なお一層の信仰と報謝の念を厚くし、併せて源立寺のますますのご隆昌をお祈り申し上げ祝辞と致します。

来賓祝辞

災いを転じて幸いとなす

広宣寺住職 築瀬明道

に修復落慶の法要が営まれるに至りましたことは、住職の喜び、講中の喜びはいかばかりかと拝察申し上げます。

くなくなったトイレを見、見違えるように立派になった源立寺を見る時、よくぞこの災いを転じて幸いとなしたものだ、住職並びに講中一同のご信心とご奉公に、心から敬意を表したいと思っております。

みなさん本日はまことにおめでとうございます。

「災いを転じて幸いとなす」ということがございます。これは、災いを転じて幸いとなる、というのではないのです。

それにつけても、修復期間中に降って涌いた宗門からの工事差し止め、現状復帰の嫌がらせには、教区の我われにとってもまさに怒り心頭でした。しかし住職には、情に流されることなく、事態を見極めて積極的に対処せられ、正信会寺院の今後に、良き前例を開かれたことは、まことに力強い限りであり、ありがたいことでありました。

この度の大地震は、地震には安心感を持っていた阪神間に、本当に大きな災害をもたらしました。南近畿では唯一この源立寺が、甚大な被害を被ったのであります。

それは、正法を受持し、諸天の加護を被っている我われも、また逃れることのできない災いがあるのであります。問題は、その災いをいかに転じて幸いとなしていくか、ということだと思えます。そこに、我われ大聖人様の正法を信仰しているものと、そうでないものとの違い目をはっきり分かれてこそ、信心のし甲斐があるものだ、私は思っております。

さすがに住職には心労が重なり、病には倒れはいたしましたけれども、幾多のアクシデントを見事に乗り越えられ、解決されて今日を迎えられましたことは、本当に言葉に尽くせぬ喜びであり、ご同慶にたえない次第であります。

しかしながら、いち早く住職と講中が一体となり、真に寺檀和合して、ここに見事

今こうして、地震を契機にいたしまして修復がなされ、補強された柱や梁や、修復された天井や、それから何より重厚にして荘厳になった屋根、さらに扉や山門、新し

どうぞ源立寺法華講の皆様には、住職を守り、さらにいっそう寺檀和合して、このお寺と講の発展のために、さらには正法護持の大願のためにご精進ありますよう、切にお願い申し上げます。一言教区代表の挨拶にさせていただきます。



祝辞を賜った築瀬尊師

おめでとうございました。

おめでとうございました。

住職謝辞

大聖人のお心になう修復事業

住職 菅野 憲道



菅野住職

本日は当山の修復落慶式に当たり、有縁の諸大徳、ご来賓の皆様には何かとご多忙な中、ご臨席給わりまことにありがとうございます。

また修復工事を担当いただきました工事関係者の皆様には、震災後の大変な時期にご尽力いただき、迅速かつ丁寧に施工して頂きましてありがとうございます。

当山法華講・檀信徒の皆さん、我われの信心の道場がかくもりっぱに修復がなりまして、まことにおめでとうございます。

まだ多少工事が残っておりますが、事業の大略は完成しましたので、法華講総会にあわせて、落慶法要を奉修致すことにしたのであります。

りますが、皆様には種々ご多忙のところ、お差し續りのうえ、ご参詣・ご出席まことにありがとうございます。

修復事業の経過及び収支報告については、担当の委員よりの報告の通りであります。

私としては三点ほど思うところを申し述べたいと思います。

第一に今回の修復事業が、本当に大勢の方々の純粋な信仰心の結晶としてなったものであるということ。このような事業を行う際、他宗他門の例では、ほとんどが半強制的に割当制で募財をおこなったり、また金額を張り出して、名誉欲を競わせたり、果ては新興宗教にみられるような御利益話ばなしで言葉たくみに弱い人をだます詐欺まがいのケースが多いのであります。この点、今回の事業は趣意書をもって呼びかけ、期間を定めた上で、全くの任意でお願いしたのであります。しかも有志の方々が自発

的に、それぞれの分に応じてできることを身をもって手伝わられたのであります。

第二点は、会計の内容を透明にして収支を明らかにした点です。会計報告の通り皆さんのお志は、一円も粗末にすることなく全額修復に当て、仏様にご供養致しました。

第三点は、事業半ばに予想外の色々な障害が起こりましたが、ことごとくこれ乗り越え、文字通り変毒為薬して本日の慶事を迎えたことです。

なるほど世間の宗教団体では、何億・何十億という金額の事業はいくらでもあることとであり、この程度の規模の事業は大したことないという人もあるかもしれません。しかし、その内容、その精神からいえば、これ程立派な事業は無いものと、ひそかに自負しているのであります。必ずや宗祖大聖人のお心になうものと信じております。

どうか、今回の修復事業をごらんいただき、法華経を正しく信ずる者は、諸難ありともかならず守護されること、災いを転じて幸いとすことを確信されんことをお願いいたします。

本日をまた新たな信心修行の出発の日と心得て、精進してまいりましょう。

祝電紹介

(教区外)

(敬称略 順不同)

源立寺様、修復落慶法要並びに第二十六回法華講総会、誠におめでとう御座います。

昨年の大震災により大打撃を受けたにもかかわらず、御住職と法華講衆の団結に依り幾多の苦難を乗り越え、今日の良き日を迎えられ、今喜びを味わっておる時と拝察申し上げます。

この間には、宗門側からの嫌がらせも有ったけれども、関係各位の御努力により、仏天の加護を賜わり全ての魔を打ち破ることができました。

今后、この経験を各人の生活の中に活かし、何なる難が起きようとも、正信の信仰を基として励んで変毒為薬されん事を祈ります。

正信会議長 水谷秀旭

元気に退院されたご住職のもと、源立寺修復落慶法要並びに第二十六回法華講総会が盛大に開催され、衷心よりお喜び申し上げます。誠におめでとうございます。昨年来、頻発せる諸事象の上から「国が乱れるときに法華経が弘まる」との宗祖の見識を肝に銘じ、仏祖三宝尊の御報恩謝徳の為、日興門流の眞の法華講衆としての誇りと自覚を以て本日の総会を機に、ご住職ともども不惜身命の決意を新

たに法華弘通に勇猛精進されますよう、心よりお祈り申し上げます。

天晴寺 卜部乗道

法華講一同

震災修復落慶法要並びに法華講総会、誠におめでとうございます。

正信の志ますますよからんと祈ります。

本源寺 近藤讓行

源立寺修復落慶法要、並びに法華講総会、誠におめでとうございます。源立寺法華講のますますのご発展とご住職のご健康を心より念じ上げます。

妙覚院 松田教尊

修復落慶法要誠におめでとうございます。ますます立派になった本堂は講中皆様方の、ご本尊様に対する赤誠のあらわれと存じます。今後その心を大切に、さらなる精進と源立寺のご発展をお祈りいたします

鈴鹿光徳寺 林 律道

本日の修復落慶法要並びに第二十六回法華講総会、誠におめでとうございます。大震災から以前にもまして、立派に荘厳なされたことく、いかなる困難をも乗り越え、富士の清流を未来永劫に流れしめるべくご住職のもと、講の弥栄をお祈り致します。

応身寺 荻原昭謙

修復落慶を記念して、本堂前脇に「きんめつげ」が記念植樹された





法華講総会

修復落慶法要の後、小憩をはさんで第二十六回源立寺法華講総会が、多田昌弘さんの司会により開催された。

総会は、先ず司会の多田さんの開会の辞に続き、成田詳道師の唱導によって「諸法実相抄」のご聖訓奉唱がなされた後、橋本義一さんの活動報告へと進み、次で所感発表では、青年部新谷美奈子さんが「法統相統」と題して、自らの就職問題をきっかけに、前向きな信仰姿勢を持つに到った経緯を発表された。

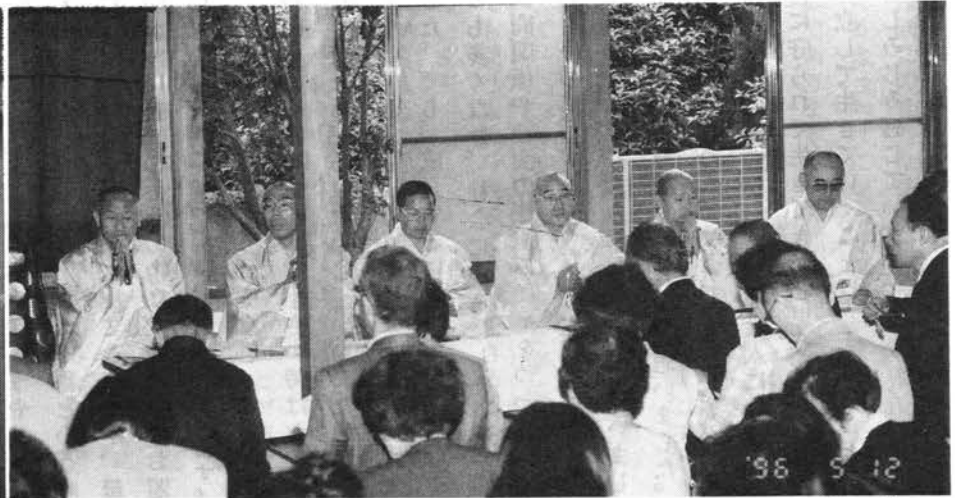
ここで、正信会副議長・三重県津市経住寺住職、古川興道師が登壇。師は、我われ一人一人が持っている名前と、そこに込められた意味から説き起こされ、「(妙)の三義」について講演された。

講演の後、尾林弘三講師の挨拶、住職指導と進み、最後に福田副講師が閉会の辞を述べられて、法華講総会は終了した。

その後、駐車場の特設テントに用意された、ビールや肴に舌鼓を打ちながら歓談のひとときを過ごし、すべてが終了した。



多田さんの司会



教区の住職方もご臨席いただいた



活動計画：橋本副講頭



御聖訓奉唱：成田執事

所感発表

法 統 相 続

青年部 新谷美奈子

今日は、私が最近感じることをそのままお話しさせていただきたいと思います。

私は九歳の時に正信会に入りました。もちろん母が信心をしていたから、一緒に私も入信したのですが。以来十五年、母と一緒にこの源立寺にお講にお参りし、少年部、青年部に参加してまいりました。

しかし、恥ずかしい話ではありますが、家ではあまり勤行をしてはおりませんでした。母から、

「あなたはお経をあげなあかんよ」

と言われ、たまに気が向いた時や時間のある時などはあげるといった調子でした。

母は、よく私に信仰の話をしてくれました。

「信仰は良い縁を結んでくださるのよ。美奈ちゃんはその縁を良くしないといかんよ。」

「困った時、壁にぶつかった時に題目をあげなさい。よく自分を見つめ反省して

「ごらん。」

と良く言われます。

言われた時は「そうやな」と思い母の話に耳を傾けます。小さい時から、そうやって言

われてきているせい、ここ一番という時には、お題目が心の中に出てきますが、母のように自分の生活の中に、魂の中にお題目の信心が根本になってはいないと思います。

「信心でなんだろう」そう思って小さい時からよく考えますが、小さい時はお寺に行ったら怒られないし、いいんだらうなという程度のことしか考えておりませんでした。でも、成長するにしたがって悩むことも多くなり、社会に出るにしたがって、人間関係や社会の仕組みに足をつっこんでいくうちに、いろいろな壁にぶつかります。小さい時は早く大人になりたいと思いましたが、大人は自由に生きれると思いました。でも、実際違うんですね。それが分かる、とても自分がいろいろな人を守られ、母に守られて生きてきたと思うし、一人で自立して生きていくことは、大変なことだとしみじみ感じています。

私は、現在看護婦として働いておりますが、ほんの半年前まで就職について、卒業しても働くところがないんじゃないかと、ひどく悩みました。看護婦は、普通の女子の就職難ほど苦しいものではありませんが、それでも大きな病院や公立の施設では看護婦の数も充足しつつあり、毎年就職口は減ってきています。私は、自分の将来を考えた時、とても不安になりました。

誰でも自分のことや将来のこと、人生のことや命の長さが後どれくらいなのかなど、考えて生きると不安だらけで一杯だと思えます。でも、その不安に取り付かれ、自分の心の中の正のエネルギーより、負のエネルギーが越えてしまうと、不安に思ったことが現実になってしまいます。

私も実際、試験に落ちたり、就職口がなくなったり、手も足も出ない状態になりました。そんな時人間は、何とかしようと思死にもがきますが、もがけばもがくほど泥沼に入るような気がします。病気の人でも本当は自分で直ろうとする力、自然治癒力があり、前向きに考えられる人や明るく捉える人は病気の進行も遅く、治ってしまふことが多いですが、前向きに考えない人や



新谷美奈子さん

死ぬんちゃうか、なんてことを考えてばかりいる人は、重病になることが多いと思います。

そんな時母が、
「よく反省してごらん。もう大聖人様にお任せしなあかんよ。一人で自分の考えばかりだしても空回りするよ。」
と助言してくれたことが、私をとんでも救ってくれました。

「そうだな、お任せや」と素直な気持ちになれたのです。

自分を反省し、まずお題目を唱えることから始めた時、不思議にも吹田市にある国立循環器センターの就職の話があり、トン拍子に話が決まっていき、現在はそこで勤務しております。

今回このような体験をして、信仰をよく考えるきっかけになったと思います。私の持論であります、人間は自分の生きたいように生きる力を誰もが持っています。ただ生きていくうちに自分の欲や、不安といったものが、自分の魂を汚し、可能な力を弱めていくと思います。この信仰は宇宙の生成流転の法則そのもので、私たちが気がつけば一〇〇パーセントの力を楽に出せ、何でも受け入れられることができるものだと思います。

私が就職したところは専門病院で、とても大変で、えらいところに入ったとも思いますが、取りあえず自分自身をしっかりと確立しようと思います。つらいことがあってもお題目パワーで消し去ろうと頑張っております。そして、毎日勤行をし、どんな困難でも乗り越えられる力を自分のものにできるよう、今後は努力していきたいと思っています。

最後になりましたが、ご住職様と法華講の皆様、そして私の愛する母に深く感謝いたします。

ご清聴ありがとうございました。

(箕面地区)

法華講總會講演(要旨)

平成八年五月十二日(日)

於第二十六回源立寺法華講總會

妙 の 三 義

三重県津市 経住寺住職 古川 興道



講演される古川興道師

皆さん、こんにちは。

「目には青葉 山ほととぎす 初がつお」

という俳句がありますが、新緑の美しい絶好の季節に、修復落慶法要並びに第二十六回源立寺法華講總會が盛大に、そして元氣一杯に開催されておめでとうございます。心よりお慶び申し上げます。

私は、先ほど紹介をいただきましたが、日本一短い名前の県庁所在地、「津」の経住寺で、二十七年間御奉公しております古川興道

と申します。これをご縁に、今後はよろしくお付き合いのほどお願いいたします。

昨年の阪神・淡路大震災によりまして、被害を受けられました方々には、遅ればせながら、謹んでお見舞い申し上げます。

当源立寺さんも、本堂・庫裡等がかなりの被害を受けられました。ご住職の賢明な判断と、当講中の真心からの御供養・外護によりまして、見違えるような立派な風格のある寺院と生まれ変わりました。

途中宗門側の裁判に訴えるという嫌がらせがありました。これもご住職の賢明な対処と、仏祖三宝尊のご加護により、宗門側をねじ伏せ、退散させました。

何れにいたしましても、震災によって受けた被害を見事に変毒為薬した講中の皆さんに、絶大な拍手を送りたいと思います。

《名前とそこに込められるもの》

私たちは、この世に生を受けたときに、誰でも名前を付けてもらいます。

ら、特に「法華経題目抄」に説かれる「妙の三義」にしぼって申し上げます。

まず一般的な意味では、〈妙〉という字は女編むすめに旁つくりは「少ない」と書きますが、女の年が少ないつまり、若いということの意味するのであります。女性が若いということとは、美しい、綺麗だということであり、妙の字にはずばり美しいという意味があるのであります。

先ほどの名前に関連して言えば、妙の子と書いて「妙子たえ」となりますが、この名前には親の、心身ともに美しい子に育ってほしい、との熱い願いが込められているのであります。

もう一つの意味は、よく妙なことか奇妙なことが起こった、という言い方をしますが、「不思議なこと、考えられないこと、変なこと」の意味があります。これは大聖人様も、天台大師の言葉として「妙は不可思議と名づく」と仰せになられておる通りであります。

《妙とは開く義なり》

さて、妙の字についての仏教的な意味あいについては、「法華経



関西正信連合会からも代表の方が参列

題目抄」に、〈妙〉の三義として明かされています。

第一に、

「妙と申す事は開という事なり」（全集九四三頁）とありまして、妙には開くとか、開発するという意味があるということです。これは、本来的には、方便の門を開いて、仏様のお悟りになった真実の相を示す意義があります。

爾前経においては、仏様のお悟りになった妙法が隠されてきましたが、法華経に來たつて始めて、秘密の藏を開いて妙法を顕わされたのであります。敷衍して申し上げれば、妙法は一切の経教、あらゆる思想や哲学の体内に流れ、人々を利益する根本的な力を「開いていく」意義が秘められている、ということなのです。

さらには、十界の生命論から申し上げれば、地獄・餓鬼・畜生と九界を巡りゆく、一切衆生の生命の門戸を開いて、仏界という無上の宝を表せることでもあります。生命に内在する宝物を、開く鍵となるものこそ妙法の力であります。

このように考えてきますと、妙の開く義とは、妙法ということの中の能動性を表現しているともいえます。能動ということは、自分の意志や力で自らが活動することであり、また自分から他に働きかけることでもあります。

そういったしますと、私たちが創価学会の謗法や社会的不正を糾そうとして始めた正信覚醒運動は、個々に内在する正義への能動的発露であり、未開の原野を開発するに等しいパイオニア精神なくしてはできなかつた運動であります。ご先師日達上人御遷化ともなう阿部日顕師の法主詐称によつて、この覚醒運動は大きな危機を迎えました。今日においては、我われ正信会の僧俗こそが宗開両祖の

教えを堅持する唯一の集団であると確信するものであります。

今から七百余年の昔、大聖人様が九力年お住まいになられた身延の山を、民部日向や波木井さんの謗法のために、離山して新天地を求め御法を守られた第二祖日興上人は、その時のご心情を、

「身延の沢を罷り出で候事、面目なさ本意なさ申し尽くし難く候へども、打ち返し案じ候へば、いづくにても聖人の御義を相継ぎまいらせて世に立て候はん事こそ詮にて候え」

(歴全一―一七二頁)

と、ご決意の一端を述べられておりますが、このご精神こそ正しく「妙とは開く義なり」の能動的実践行動だったのではないでしょうか。

《妙とは具の義なり》

次に、

「妙とは具の義なり、具とは円満なり」(全集九四四頁)

ということであります。つまり、具とは具足ということ、また円満ともいい、物が十分に備わっているということであります。

本来的には、法華經一卷は文字は六万九千三百八十四字をもつてできておりますが、その法華經の一文字一文字の中に余のすべての文字が納まっているという「具足の義」「円満の義」ということでもあります。

例えば、大阪湾の一滴の水には、淀川・木津川・大和川・武庫川等の水が納まっているように、大海の一滴の水には、一切の河川の水が納まっているというように考えることができますが、これが具足の義であります。



参加者 聞き入る 真剣に

そういう考え方をもとにすれば、世の中の一切のもの、もっと大きくいえば宇宙に遍満する一切のもの―諸法実相、また我われの心の変動―一念三千―までも、すべて妙法に具足する、備わるということであります。

そういうことありますから、妙法には仏様の説き示されたお経の功德や、仏様の示された因行果徳、万行万善の功德も備わっている、具しているのであり、我われはそれを信じ、唱えるだけで我が身にも備わるのでありますから、本当にありがたいことと考えなければいけないと思うのであります。

また、円満ということですが、円とは丸ですから、欠けたり凹んだ所がないということ。満は満ち足りるということ、足りないところ不足の所がないということ、ともに《妙》の働きや力を譬えているのであります。現実の生活に引き寄せて考えますと、円満な家庭とか、円満な性格という言い方をしますが、円満な家庭とは家族の中でもめ事がなく満ち足りていることで、円満な性格というのは人柄が激することもなく穏やかなことを指します。

そうしますと、瞬間湯沸かし器の異名を持つ日顕さん率いる宗門や、狂信的・欠陥人間集団創価学会等には、とても円満という文字は相応しくありません。

正信会の我われこそ、心豊かに妙法を唱えている円満というに相応しい団体だと確信しております。

《妙とは蘇生の義なり》

第三には、「蘇生の義」ということです。御書に、

「妙とは蘇生の義なり。蘇生と申すは蘇る義なり」

(全集九四七頁)

とあります。このご文は皆様もよくご存じだと思います。

蘇生ということの意味は、生き返る、回生、更正などであり、この回生とは、起死回生のホームランなどというように、死にかけていたものが生き返ることであり、更正とは、悪の道から更正するなどと使われるように、生活の態度・精神がものよい状態に戻ること、使えなくなつたものを再生してまた使えるようにすることであり、使えなくなつたものを再生してまた使えるようにすることになります。

大聖人様は御書の中に、爾前経では声聞・縁覚の二乗、一闍提人(極悪人)、女人等は徹底的に嫌がられて、これらの人々は仏になる種(仏性)が死んでしまっているから、成仏できないとされてきました。法華経に顕わされた妙法によって、すべてが死の淵から蘇って成仏という大願を遂げていった、二乗作仏、悪人・女人の成仏(舍利弗・提婆達多・童女)が遂げられたということを、重ねて仰せられておりますが、これ偏に妙法の蘇生の力の賜物でありま

す。

妙法には、いかなる境涯やいかなる境遇にあつても、それを回転させる力が存在します。悩みや苦しみのどん底から、創造や喜びの生命へと変革させるエネルギーのみならず、万物の営みに対して活性の息吹を与えます。



法要当日の源立寺全景

我われが妙法のお題目を唱え、己心の妙法を躍動させる時、あふれんばかりにみなぎってくる力、それが蘇生の力なのであります。

さて、蘇生といえは正しく今日の源立寺が、ぴったり当てはまるのではないでしょうか。

源立寺の源流を尋ねてみますと、天正十一年（一五八三）、大石寺第十四世日主上人の時に、大石寺の僧侶、中納言阿闍梨日誓（与）という方が、摂津国長柄の地に建立したのでありますが、その後教勢が振るわず、江戸末期から明治初期にかけては廃寺同然であったものを、明治十年、第五十五世日布上人の時に現在地に移し再建されました。以来、講中であつては、困難な中をよく寺院を外護され、改築・修復を繰り返し、幾度も蘇生されてきましたが、この度は、昨年の大震災をきっかけに寺院全体の修復にとりかかれ、見事に完成を迎えられました。この修復は、過去最高のものではなからうかと存じます。

ピンチをチャンスに、災いを福となしていくこの原動力こそ、妙法五字の信心の賜物であります。源立寺僧侶が一体となり、身をもつて「妙とは蘇生の義なり」を示されたことに、大いなる敬意を表したいと思ひます。

《思いやりの心をもって》

今日五月十二日は、弘長元年御歳四十歳の日蓮大聖人が、伊豆の伊東に流罪せられた日であります。

日蓮大聖人は、文応元年（一二六〇）七月に「立正安国論」を幕府に上呈したことをきっかけに松葉ヶ谷の法難を受け、危うくその難を逃れられ、一時鎌倉を離れ下総の富木常忍の屋敷に身を移され

ておりましたが、翌年の春再び鎌倉に戻ったことを知った幕府は、執権長時の権力によって、一度の取り調べもなく、伊豆流罪に処せられたのであります。

この時、駿河国蒲原の四十九院において修行中の当時十六歳の日興上人は、大聖人様の伊豆流罪の報を受けるや、直ちに流罪地に赴き、大聖人様にお給仕しながら法門の伝授を受け、また近隣に赴いては折伏・弘教に励まれたと伝えられております。

また、十六歳といえは、南条時光さんが身延に入山された大聖人様を初めて訪ね、御供養を奉りご指導をいただいたのも、この年齢であります。

現在、正信会では、

「青少年を育成し正信の継承を」

との活動方針を掲げ、法統相続のために青年の育成に力を入れておりますが、時代は異なるとはいひませんが、大聖人様の時代の青年の姿には大いに学ばなければならぬと思ひます。

また、これとは別に五月十二日は、「看護の日」でもあります。病気にイチャゲールの生まれた日で、「看護の日」でもあります。病気になったり入院をしたりしますと、落ち込んだり気が塞いだりしますが、周りの人の優しさや看護婦さんの笑顔は、一番の薬になり元気がでてきます。

正信会の人たちも、常にこういう看護の心をもって日々を過ごしていただければ、ありがたいと思ひます。

当寺院、当講中のますますの発展をお祈り申し上げまして、終わりにいたします。

ご清聴ありがとうございます。

（文責速記者）

講頭挨拶

道場に恥じない精進を

講頭 尾林弘三

本日は源立寺の第二十六回総会を、このように立派に修復して開催することができ、心より嬉しくお祝い申し上げます。皆様、誠におめでとうございます。

南近畿教区の御導師には、法務ご多用のところご臨席を賜りあつく御礼申し上げます。

各寺院の代表の方々には、源立寺に足をお運び下さり、誠にありがとうございます。ました。

経住寺住職・古川興道御導師には、ご



尾林講頭

講演を賜り誠にありがとうございました。講中を代表してあつく御礼申し上げます。

正信覚醒運動は、創価学会の謗法路線を正すことに始まり、

「我等こそ富士の本流」

「折伏こそ正信の修行」

をスローガンに活動してまいりました。

私たちの人生の目的は、正しい信仰を根本として成仏を遂げることにあります。

常に求道者として、どこまでも正法正義に立脚して、正師のご教導のもとに、身口意の三業に正法を持つことが大切です。

今、私たちにとって時代を託す青少年の育成が課題ですが、昨年は、お寺の修復のため、十分な活動ができなかった面もありました。

立派になった道場に恥じないよう、法統相続に令法久住に向って真剣に取り組み、志を成就すべく精進をお願いして挨拶と致します。

【水無月詠草】



目もさめる 紅の五月の花々は

柿の若葉の した、りに映え

修復の 祝い賜わる 富士羊羹

薄茶飲みつ、 惚ぶ佛

牛乳パックの 再生になる 小物入れ

千代紙模様の 手まりが弾む

冗談を まじえ乾とる 船頭の

眼は鋭く 波を見据うる

鶯が 訪うこともなき 街中の

梅はひそかに 語りかくるや

前と元 大統領が 投獄さる

法の尊厳 日本に欲しき

日の丸に 替る良き 旗なきものか

まつわる記憶の いまわしければ

さし昇る 旭のあまりに 美しく

日の丸の旗 捨て難く思う

住職指導

今を全力を尽くして

住職 菅野 憲道

本日は法華講総会に当たり、有縁の諸大徳の皆様方、来賓の皆様方、講員の皆さん方、最後までお付き合ひいただきまして、大変ありがとうございます。ことに経住寺のご住職様には講演を給わりまして、誠にありがとうございます。本日は、ひとつだけお話し申し上げておきたいことがあります。

それはこの源立寺を修復するに当たって、一部の方から聞かれたことなのでありますけれども、「住職が死んでしまつたらこのお寺は宗門側に明け渡さなければいけないではないか。そういうお寺を、立派にしたってしょうがないから、最低限の修理でいいんじゃないか。」というような声もあつたのであります。

しかし、私はそういう先のことをいろいろ考えるよりは、とにかく今源立寺の

屋根が崩れて、御本尊様をご安置するには非常に心苦しいような状態では申し訳ない。今は今で全力を尽くして、道場を

莊嚴していくのが我われの勤めではないかと思つて、あえてそういう声にはまったく答えなかつたのであります。

実際、それはその通りでありまして、私が死んだならば宗門側から僧侶がやってきて、そして非常に困難なことも予想されるのであります。

しかし、確か二宮尊徳の歌だつたと思ひますが、

この秋は 晴れか嵐か しらねども
今日の勤めに田草とるなり

という歌がありますように、将来どうなつてしまふんだろうというような、先のことを考えすぎてもしょうがないと思ひます。

そうではなくて、今は今で真心を込めて御本尊様にお仕えし、各々の本分を尽くすことが、我われの勤めではないかと

思うのであります。

また、何といひましても皆様方が御供養されたその財の、宗門側はその器を取ることはできるかもしれないが、その中味、その志までは奪うことができないのであります。我われが仏様に御供養したといつても、仏様がお受けになるのはその志でありまして、豪邸や立派なものを御供養されたからといって、それを喜ばれるわけではないのであります。仏様が皆様方の尊いお志をお受けになられることですから、それによって我われの功德が損なわれることは少しもありません。

ただし、私も住職として無責任なことではできませんから、役員の方とも相談し、十年、十五年のうちに、新寺建立の用地ぐらいは確保したいと思つております。

いずれにせよ、

「いづくにても聖人の御義を相継ぎまいらせて候はんことこそ詮にて候へ」との、日興上人のご精神でやっていくのが正信会の精神ですから、そのつもりで安心してご精進願いたいと思ひます。

本日は大変ありがとうございます。

閉会の辞

この一年半の努力を忘れまじ

副講師 福田 一晃



本日は修
復落慶法要
副 福田 一晃
に引き続き、
第二十六回
法華講総会

と、皆さまには長時間にわたり、大変ご苦
勞さまでした。

「去るものは日々にとし」などと申し
ますが、あれほどに日本中を震撼させた、
阪神淡路大震災も、わずか一年半を過ぎ
た現在、世間の記憶からは、薄れかけてい
るように聞きます。

しかし、源立寺講中にとって、この一年
半は良くも悪くも、また忘れようにも忘れ
られぬ、一年半でした。

特に修復完成を間近に、宗門側から訴え
られた裁判事件、加えて幾重にも重なった
心労による、住職の入院・手術と、思いが
けぬ障害が、ふりかかりました。

しかし、それもこれもみな率先して、難

問解決に立ち向かった
住職と、それに応えた
講中の団結で、晴れて
本日の慶事を、迎える
ことが出来ました。
振り返れば、あの震
災までが我々の道心を、振るい起こしてく
れたと思えます。嫌な思い出の震災ですが、
住職の道場守護に対する熱意と、講中の異
体同心の信心が、毒を薬に変えたと言えま
しょう。

このうえは、一年半の精進努力を、各自
の信心に反映していつてこそ、真の変毒為
薬だと思えます。

どうか本日のお祝辞、ご講演、そしてご
指導を噛みしめて、さらなる努力をお願い
申し上げます。本日は誠におめでとうござ
いました。

【恵日俳壇】

〔宮下留代〕

風薫る 喜びあふれる 叙熱かな

風薫る 落慶法要 皆笑顔

清しきは 五月若葉を 透る風

〔山田 絢子〕

『恵日』にて 師の病知る 若葉冷え



【訃報】

〔川西地区〕

慈栄院妙幸大姉

俗名 朝岡幸江之霊

五月十四日寂

行年 七十歳

謹んでご冥福をお祈りします。



終了後、お祝いの席で乾杯！

祝電紹介

(教区)

本日の盛儀を信心の衣で飾り、立派なる復興の袈裟で荘厳された源立寺様と檀信徒ご一同様に、心より敬服申し上げます。

本年は青少年の育成が叫ばれ、正信会も挙げて取り組んでおりますが、本日の威儀を目の当たりにした、貴寺所属の青少年にとっては、何ものにも勝る手本となり、育成の為に、これ程の教育は無いものと信じます。御講にてお参りが叶わず、申し訳ございません。

本日は誠にお目出度うございます。

普妙寺 石川広寛

若葉の候

第二十六回源立寺法華講総会、誠におめでとうございます。

昨年の阪神大震災の被害を御住職を中心に講中団結をされてここにめでたく修復落慶法要を迎えられました

事、衷心よりお祝いを申し上げます。本年は、御開山日興上人の御誕生七百五十年の佳節の年にあたり、「我等こそ富士の本流」の精神を自覚して本日を機に、御住職の御指導のもとに益々のご発展と御興隆をお祈り致します。

普妙寺法華講一同

第二十六回源立寺法華講総会が盛大に開催され、誠にお目出度うございます。

「伝えよう正法、託そう信仰」の合言葉のもと青少年の育成に努力を重ねられ、御住職のご指導の下僧俗和合・異体同心して、源立寺法華講のご活躍と益々のご発展をお祈り申し上げます。

妙音寺 藤村聰道

法華講一同

(敬称略 順不同)

五月二十三日現在の源立寺
工事は五月中に終了の予定



六月の行事

- 一日(土) 午後二時 お経日
- 二日(日) 午前八時 講中勤行会・幹事会
- 七日(金) 午後二時 広基寺お講
- 九日(日) 午後一時 お講・役員会
- 十三日(木) 午後一時 お講
- 十五日(土) 午後二時 教学研鑽会
- 二十六日(水) 午前九時出発 婦人部総会
(於 大蓮寺)

※今月の「法華経講義」は中止します

今月の宅お講

- 六日(木) 午後一時半 旭丘地区(宮崎智宅)
- 八日(土) 午後一時半 宝塚地区(金丸孝子宅)
- 二十二日(土) 午後二時 大阪地区(梅本光治郎宅)
- 二十九日(土) 午後一時半 槻木地区(佐久間勝治郎宅)

※宅お講の申し込みは、源立寺までお願いします。
締め切りは、毎月二十日です。

恵日

平成八年六月号 通巻十六号
平成八年六月一日発行

編集兼
発行人

菅野憲道

恵日編集室

〒五六三 池田市槻木町一〇 源立寺内
☎(〇七二七)五一一三三三三
購読料 定価一〇〇円(千別)